



よんでみよう。
なぞってかこう。

あ
め
の
ひ
、

お
か
あ
さ
ん
と

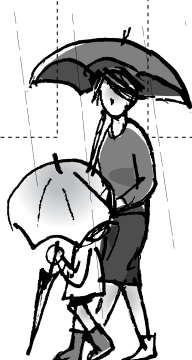
わ
た
し
は
、

え
き
へ

お
と
う
さ
ん
を

む
か
え
に

い
き
ま
し
た
。



「あめのひ…」なぞり書き
文を書き記す体験

4964 ©Adeamland

1) まず、読ませる。次いで読み聞かせる。助詞を多少強調して読んでやる。
2) 「子どもが持っているのは何だろうか?」などと、「小さな物語」の想像を誘う。
2) なぞり書き。

a) 文を書き記すことが書き言葉の世界を準備する。少し長く、複雑で省略や誤用のない文を子どもにも与えることは大事。いつ、だけれど、どこで…の要件も。
b) 助詞への注意。膠着語である日本語では、助詞が大きな(ときに決定的な)文法的機能を果たす。

特定用具: 不要

Date: